

社外取締役メッセージ

オープンで自由闊達な議論を
できる環境が、企業価値向上に
つながっていると実感しています

社外取締役
監査等委員

植田 祥裕



社会の要請に応えるべく、取締役会ではサステナビリティを意識した経営を進めていきます

私たち社外取締役は、当社が長年にわたって築いてきた企業文化や考え方などの背景をより理解しつつ、新しいフェアな視点をしっかり持ち、会社発展の一助になりたいと考えています。取締役会では7名中4名が社外取締役として過半を占めており、法務や会計税務、物流業界など多様な経験を持つメンバーで構成されています。また、監督するだけでなく、経営判断にも積極的に参加するなど、アドバイザーとして助言を行っています。

現代において利益追求だけでは社会の要請に応えることはできません。物流業界がサプライチェーンを支える重要な役割を果たしているなか、当社としても環境負荷の軽減は取り組むべき大きな課題の一つだと認識しています。同時にSDGs達成への貢献などステークホルダーからの期待にどう応えていくかも持続的成長を語るうえで重要な観点です。サステナビリティ推進委員会が設置され、本格的な取り組みを開始しましたが、中長期的な観点でしっかり成果を出していくことを期待しています。

また、多様な社会要請に応えていくためには、取締役会や幹部人材の多様性を確保することも欠かせません。性別や国籍、世代など幅広い視点も今後の経営には不可欠であり、外部からの確保や時間をかけた育成を行うと同時に、目標と計画を明確にして一定の時間軸のなかで人材戦略を推進していくことが大切だと考えます。

取締役会は透明性・実効性ともに高く、人材育成とサクセッションプランが進展しています

当社は社外取締役への手厚いサポートもあり、取締役会はオープンで議論しやすい場になっていると感じています。事前に必ず説明会が開催され、事務局ではなく取締役会の発表者の方から

直接説明を受けています。肩肘を張らずにいろいろな疑問に対して説明をいただいたうえで取締役会に臨むことができます。

さらに、当社の特長として、毎月意見交換会が開催されています。この会は社長や各執行役員、実際に業務を推進している幹部社員の方のいずれか1名と社外取締役4名で行っており、日々の事業運営をリアルに理解できます。各経営陣や次世代リーダー候補者とフェイストゥフェイスで触れあう機会なので、考え方や人柄などについても理解を深めることができます。また、社外取締役4名だけの小規模な定例会も実施しており、より自由な議論ができる場となっています。こうした工夫や取り組みは、社外取締役役位では取締役会の運営に大いに役立っていると感じています。取締役会の実効性評価は毎年実施しており、その結果について分析し、振り返りをしっかり行うようにしています。

人材育成についても、当然ながら当社でも今後の経営における重要課題です。特に、業容拡大に伴うグローバル展開においては、知識や経験を持った幹部育成はどの企業でも時間がかかり難易度が高いものですが、当社では工夫しながら進め成果も出てきていると感じています。海外拠点訪問では、有能な日本からの出向社員だけではなく、ローカルの方のマネジメント層が増えつつあると感じました。当社の経営幹部のほとんどは国際経験があり、計画的な海外ローテーションを人材育成に組み入れていることが奏功していると考えます。

こうした人材育成の積み上げをベースに、サクセッションプランにおいてもスキルマトリックスを活用しながら、実際の交代が行われる以前からさまざまなシナリオを踏まえて、指名報酬諮問委員会などで検討を進めています。こうした時にも、通常の会議だけではなく意見交換会など多くの機会に幹部の方々とのやり取りが生きてくると思います。

ステークホルダーの皆様へ

私は、株主、投資家をはじめとするステークホルダーの皆様の声は、貴重な経営情報として捉えています。機関投資家や個人投資家向けに決算説明会や個別IRイベントを行っており、その内容は取締役会ほか管掌部門で共有され、さまざまな議論の土台となっています。このような定期的な対話がステークホルダーの皆様との信頼構築につながると考えます。

また、取締役会における社外取締役の多様性を確保することで、より幅広い社会の要請や株主、投資家をはじめとするステークホルダーの皆様からの要望をしっかりと受け取ることができると考えています。さまざまなご意見と、社外取締役として自らの経験に基づく多様な意見を経営に反映させ、企業として業績の側面と社会への貢献度を両輪として、当社の価値を高めていきたいと考えています。